

＼ 広がれ!防災の輪!!! /
光生舎虹の里 理学療法士 寺川 努さん



熊本地震が発生してまもなく3カ月。
現在も様々な形での支援が必要となる被災地に、
5月に災害派遣として参加した理学療法士の
寺川さんにお話を伺いました。

**被災地支援活動へ
行ったきっかけは？**

4月に熊本で発生した地震のとき、自分自身も東日本大震災で被災した経験があったので、居ても立ってもいられない気持ちになりました。そんなときに、(公)北海道理学療法士会が実施していた災害派遣を知ったんです。そして地震から約1カ月が経過したころ、熊本県へ行き1週間ほど活動しました。

いざ被災地に足を踏み入れると、倒壊した家屋や飛散したガラスなど、テレビで見た景色の何倍も厳しい現実が広がっていて、思わず言葉を失いました。

**被災地では
どんな活動をしましたか？**

お一人おひとりに合わせたリハビリを提供したかったんですが、現地では大勢の方を対象に、体操などを通して、生活不活発病やエコノミークラス症候群の発症防止に取組みました。

このほかにも、避難所生活の環境改善のために、保健師さんや自治体の担当の方と一緒に協議しながら活動しました。

印象的だったのは、「あんながたどこさ」の曲に合わせて体操をしたときに、「熊本どこさ」というフレーズが登場した途端参加者した皆さんが笑顔になったことですね。やっぱり、どんな状況であっても、「ふるさと」って大切な存在なんだと感じました。

また被災者の方から「わざわざ北海道から来てくれてありがとう。」とお話しいただいたときに、微力ではありますが、役に立てたことを実感できた瞬間でした。

**今回の経験を
今後どういかしたいですか？**

活動を通して感じたのは、今回の地震が北海道で起きたら、赤平で起きたらどうなるだろうということでした。冬の北海道だとしたら、ボランティアの方が雪道を運転することも危険ですし、屋外避難も困難です。様々な場面を想定しながら、日頃から地震に備えなければと思いました。

今回の災害派遣で得た知識と経験をいかして、いつか赤平で地震などの防災についてのワークショップを開いて、地域の皆さんと防災情報を共有して防災の輪を広げていきたいです。

今日も笑顔で
頑張りやあ～よ



地域おこし協力隊 まちの情報発信部門
愛知県出身 野口 暢子



先月取材した空知単板株式会社さんの100kmウォークにマッサージボランティアとして参加しました。マニュアルを見ながら精一杯マッサージをしましたが、これまで経験もなかったので、悪戦苦闘の連続(汗)。私がまともにはできなかったのは会話だけでした(涙)。



普段は、施設の利用者さんのリハビリを担当している寺川さん。前職が陸上自衛官というから驚きです。いつも会話を楽しみながら、施術を行なっています。

～地域の魅力発信中！～
赤平市地域おこし協力隊 Facebook

